

柿野住民自治協議会たより

柿野住民自治協議会報

第 28 号

令和6年2月発行
編集制作: 柿野住民自治協議会
事務局: 松阪市飯南町横野 867
飯南体育センター内

柿野住民自治協議会は「みんなが安全で安心して暮らせる町、柿野」～夢のある柿野、住んでいて楽しい柿野、いつまでも住みたい柿野～を目指して活動しています。

柿野支援隊

市地域の元気応援事業交付金と 地域づくりスポンサー賞を獲得！

時代に即した住民団体の活動と評価される



柿野支援隊の活動内容を発表する竹岡会長（左）と
廣田会計役員（市産業振興センターで）

住民団体の活動を称える松阪市地域の元気応援事業と地域づくりスポンサー賞の受賞団体を決める第二次審査の公開プレゼンテーションが令和6年1月27日、松阪市本町の市産業振興センターで行われ、柿野住民自治協議会は、地域のお年寄りをサポートする「柿野支援隊」制度と活動内容を発表。有意義な活動と評価され、地域の元気応援事業交付金とスポンサー賞を獲得しました。

プレゼンテーションは第一次審査を通過した松ヶ崎、あざか、松尾、柿野の4つの住民自治協議会が行いました。4団体の最後に登壇した柿野住民自治協議会の竹岡春俊会長は、地域の高齢化対策として立ち上げた住民による共助組織「柿野支援隊」の活動内容を発表しました。審査員に「時代に即した住民団体ならではの活動」と評価され、地域の元気応援事業交付金20万円と松阪新電力株式会社スポンサー賞20万円の受賞団体に選ばれました。

支援隊では運営資金の捻出に苦労しており、これら交付金、賞金は刈払い機や替え刃、ヘルメット、燃料などの機材整備費と講習会費、傷害保険料などの諸費用に充てる予定です。

賛助会員募集 持続的な活動へ支援をお願いします！

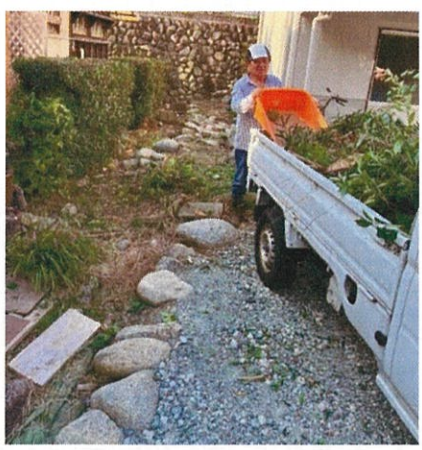


柿野支援隊の円滑な運営のために主旨をご理解いただき資金援助していただける個人、事業所の賛助会員を募集中です。個人の方1口1000円/年、団体、事業者の方に1口5000円/年の出資を募っています。問い合わせは柿野住民自治協議会事務局(090-5769-6948)までお願いします。

地域みんなで助け合い

「柿野支援隊」はこんなことをしています！

生垣の剪定作業



石垣の除草作業



草刈り作業



柿野支援隊利用者の声

- 87 歳女性**「回覧で支援隊の活動を知り、作業をお願いしました。もう、自分ではできないので。ぜひ、この活動を続けていただきたいです。また、利用しようと思います」
- 86 歳女性**「地元の人ばかりなので、安心してお願いできました。きれいにしていただき、ありがとうございました。料金も安く、本当に助かりました」
- 98 歳女性**「暑い中、お世話になり、ありがとうございました。自分ではできなくなったので、大変、助かりました」

★柿野支援隊がする仕事

粗大ごみの処理 家周辺の掃除、除草 電球交換 家の軽微な補修など
 (引き受ける作業内容はコーディネーターが自宅を訪問して検討のうえ、決定します)

★利用できるのは

柿野地域に住む八〇歳以上の世帯や障害者などです

★利用料金

支援隊員1人につき、1時間当たり五〇〇円(三〇分当たり二五〇円)運搬交通費は1キにつき二〇円

★利用方法

まず、利用会員に登録していただきます。柿野住民自治協議会事務局(090・5769・6948)に電話するか、各組自治会長に申し込んでください。その後、作業依頼書を申請してください
 支援する側の協力隊員も募集中です

柿野住民自治協議会

さぎ 詐欺電話 だまされないように！

安全・安心暮らし講習会で注意呼びかけ



詐欺被害に遭わないように注意を呼び掛ける
松阪署生活安全課の永井係長と柿野駐在所の
大野警部補（飯南産業文化センター研修室で）

自治部会は令和5年9月8日午前9時半から飯南産業文化センター研修室で、「安全・安心暮らし講習会」を開きました。松阪警察署生活安全課の永井玉彦・係長と柿野駐在所の大野直彦・警部補が講演し、地域のお年寄りら48人が還付金振込詐欺、架空料金請求詐欺の手口や対策について学びました。

永井係長は最初に、三重県下における令和4年の特殊詐欺被害状況として、142件、3億7630万円の被害があったことを紹介しました。これは令和3年に比べ、32件、被害額にして1億8380万円増えていると言います。「残念なことです。お年寄りがコツコツためた大事なお金を悪い奴らにだましとられたわけです」と注意を促しました。啓発ビデオで具体的な犯行例を紹介しながら、

▼留守番電話に設定してすぐに出ない▼市職員や警察と言われてもすぐ信用せず、お金の話をしただしたら詐欺を疑う▼架空料金請求詐欺電話で、身に覚えのない請求は無視する。または家族、友人、警察に相談する▼一度電話を切り、相手の言う市役所や警察などの電話番号を調べて確認の電話をする、などの対策を取るよう、訴えました。

また、柿野駐在所の大野警部補も「今日聞いた話を家に帰って家族や知人などに伝えてもらい、この地域からは被害者が一人も出ないようにしましょう」と呼びかけました。

天まで届け！竹とんぼ

親子ものづくり教室

教育文化部会は夏休み中の令和5年7月30日、午前9時30分から飯南産業文化センターで「親子ものづくり教室」を開きました。祖父母や親子連れの15組50人が参加し、竹とんぼづくりに挑戦しました。

講師は深野区長の出口健太さん。出口さんは新型コロナウイルスの自粛生活中、竹細工を趣味にしてカブトムシなど昆虫やギターを弾く人物などを竹細工で制作。この日も約20点の作品を会場に持ち込んで展示。子どもたちは「すごい！」と言いながら、その精巧な作品に見入っていました。竹とんぼもあらかじめの形ま

では出口さんが事前に作って渡し、参加者は羽を紙やすりで削る作業を行いました。角を丸くしたり、羽を薄くしたりして、よく飛ぶように細工しました。子どもたちは出来上がった竹とんぼを手にとり、会場内で飛ばし、歓声を上げていました。



出口さんの指導で竹とんぼづくりに熱中する子どもたち（飯南産業文化センターで）

消火栓を使って住民たちが消火訓練

(格納庫備え付けのホースを持ち寄り、点検も)



消防団員の指導で、消火栓にホースを接続し、放水の仕方を学ぶ訓練参加者（3番組で）

自治会部会は令和5年10月22日の午前中、消火栓を使った放水訓練を行いました。横野区の組自治会住民計25人が参加し、消防団員からホースを接続する操作方法を学び、実際に放水。また、持ってきたホースに穴が開いていないかチェックをして、火災の発生に備えました。

訓練は、火が発生した際、消防車が到着するまでの間、住民たちが消火栓を使って初期消火ができるように定期的に行っているもので、「格納箱のホースに破損したものがある」との指摘から、今年は訓練場所にある

消火栓格納庫のホース、筒先を使うのではなく、各組自治会の格納箱に備え付けのホース3本と筒先1本を持ってきてもらい、水を通して点検することにしました。

1番組から7番組の各組自治会員たちは指定された時間別に3番組の景井春夫さん宅東の消火栓に集まり、消防団員の指導で、消火栓のふたを開け、ホースを消火栓に接続。3本のホースと筒先をつないで田んぼに向け、勢いよく放水しました。参加者たちは「放水準備よし！」などと声を掛け合いながら真剣な表情で訓練を行い、「消火栓の使い方がわかった。近所で火が発生した時は率先して消火したい」と話していました。

この日の点検でホース22本中10本、筒先1本に水漏れがあり、ホースはストック品と交換しました。

「いつまでも健康で長生きを」

敬老の日で記念品をプレゼント

環境福祉部会は令和5年9月18日の敬老の日を前に、17日、管内の深野、横野地区に住む80歳以上のお年寄り219人に長寿を祝う記念品を配りました。

記念品は、老人会代表の方々と事前に相談。日頃使う物品が良いということで、洗濯洗剤と食器用洗剤、市指定ゴミ袋とし、竹岡春俊・柿野住民自治協議会長のお祝いの言葉も添えました。配布は、各組自治会長の皆さんの協力を得て行いました。横野2番組では80歳以上のお年寄り19人に野呂辰夫・組自治会長が記念品を配布。小塩得生さん（八一歳）宅では、野呂自治会長が「敬老の日の行事で来ました。これからも健康で長生きを」と言って記念品を手渡しました。



敬老の日で、小塩さん（右側）に住民自治協議会からの記念品を手渡す野呂自治会長（横野2番組で）

目指せ！ホールインワン

第4回グラウンドゴルフ大会



楽しく和気あいあいと競技する参加者のみなさん（飯南グラウンドで）

環境福祉部会は令和5年10月14日、健康づくりを目的に第4回グラウンドゴルフ大会を粥見の飯南グラウンドで開催しました。仁柿地区のチームのほか、深野子ども会も参加し、老いも若きも幅広い世代が交流する楽しい大会となりました。皆が真剣な表情で競技に取り組み、打数33で回り、ホールインワン賞も取った谷口周二さん（明昭会A）が優勝しました。

当日は午後から雨の予報で、天気が心配されたが、午前中は青空も覗くなどまずまずの運動日和となり、老若男女61人が出場しました。大会は8ホール2ゲーム制で、個人戦のみ。16ホールを回り、打数が少ないほど、成績が上で、同スコア

の場合は年齢の上の人を上位とするルールで行われました。開会式で竹岡春俊会長が「日頃の練習の成果を発揮していただき、皆で楽しく交流してください」とあいさつ。さっそく競技に入り、グラウンドには「ナイスショット」などの声が響き渡っていました。

10位までの成績は次の通り（敬称略）

- ① 谷口周二（明昭会A）② 小山利郎（仁柿B）③ 森本潔史（柿野住協B）④ 青木さわ子（明昭会A）⑤ 和田幸也（仁柿A）⑥ 鈴木由美（柿野住協B）⑦ 久保秀夫（新緑会A）⑧ 磯田はる子（明昭会B）⑨ 吉岡清一（明昭会B）⑩ 西川敏夫（仁柿A）



消防職員の指導で心肺蘇生法を学ぶ参加者（飯南体育センターで）

20回行うのがよい」と、効果的な人工呼吸法を説明。参加者は緊張した面持ちで人形の心臓部分に手を当てて、人工呼吸に取り組んでいました。

人工呼吸の仕方学ぶ 救命講習会

心肺蘇生法やAED（自動体外式除細動器）の使い方を学ぶ救命講習会が令和5年11月15日、飯南体育センターで開かれ、柿野住民自治協議会役員や社会福祉協議会職員、市職員の計12人が参加しました。

行事などを開催中、参加者が倒れて意識をなくした際、救急車が到着するまでの間、一般でできる応急措置を学ぶもので、講師は松阪地区広域消防組合の救急救命士ら。講習会用の人形の胸を手で押して人工呼吸をする心肺蘇生法を参加者が順番に体験の後、AEDを開いて電源を入れ、電極パッドを胸に張り、電気ショックで心臓を再鼓動させる手順も学びました。消防職員は「胸骨の圧迫は胸が5センチ程度沈み込むほど強く行い、それを1分間に100〜1

クリスマス洋風料理を学ぶ

料理教室に主婦ら18人

環境福祉部会は令和5年12月1日、クリスマスの食卓を彩る料理を学ぶ料理教室を飯南産業文化センター調理室で開きました。メニューテーマは「クリスマスにいかがですか」で、参加した18人の主婦らが洋風料理を学びました。

講師は松阪市泉町の辻田千沙さんで、毎年、地元の主婦らに料理を教えています。この日のメニューは牛肉、玉ねぎなどをデミグラスソースや赤ワイン、生クリームなどで煮込む「ビーフストロガノフ」、赤と黄色のパプリカなどを彩りよく盛りつける「クリスマスサラダ」、爪楊枝で刺し、お酒のつまみにする「ハムとチーズのピンチョス」の3種類。「ビーフストロガノフ」は10種類の調味料をうまく混ぜ合わせるのがコツで、辻田講師は「レシピ通りにすれば間違いのない味になるのでそう難しくはありません」と説明。しかし、参加者は「初めてつくる料理で緊張する」と言いながら、レシピを食い入るように見つめながら約1時間半、調理していました。出来上がった料理は分けてそれぞれ持ち帰りました。



辻田講師（手前右側）の指導でクリスマス用の料理を作る参加者たち（飯南産業文化センター調理室で）

風船でクリスマスリース！

バルーンアート教室



水本さん（帽子姿の男性）の指導でバルーンアートに取り組む子どもたち（飯南産業文化センター研修室で）

クリスマスを前に、教育文化部会は令和5年12月17日、飯南産業文化センター研修室でバルーンアート教室を開きました。子ども21人とその親、祖父母ら計39人が参加し、花とクリスマスリースを風船で作りました。

毎年末の恒例行事で、楽しみにする子どもも多く、柿野小学校の児童たちに参加を呼び掛けたことが縁で、今年と同小の日口佳代校長先生も特別参加してバルーンアートに挑戦しました。

講師は下仁柿の水本安雄さん。県職員時代に松阪市立野町の中部台公園にある三重こどもの城に勤務しており、そこでバルーンアートの技術を習得したそうで、退職後は毎年教室を開いて、子どもたちをやさしく指導してくれています。

風船をねじって形を作るが、力を入れすぎるとすぐ割れてしまうため、会場のあちこちから「パン、パーン」という音が続出。子どもたちはそれでもあきらめることなく、何度も何度も風船をふくらまして作り続け、無事、完成すると「できたあ！」と歓声を上げていました。

お正月を彩る寄せ植え

教室に主婦ら 20 人



杉本さん（右端）の指導で色とりどりの花の寄せ植えを作る参加者たち（飯南産業文化センターホールで）

年の瀬を迎え、迎春準備に何かと忙しい中、自治会部会は令和 5 年 12 月 24 日、お正月風景に色を添える寄せ植えの教室を飯南産業文化センターホールで開きました。園芸好きの主婦ら 20 人が参加し、シクラメンを中心にした寄せ植え鉢づくりを楽しみました。

講師は横谷で園芸業を営む杉本充・杉本園芸代表。この日はシクラメン、ハボタン、ジュリアン、ビオラの 4 種類の花を持ち込み、参加者に植え方を指導しました。直径約 30 ㍍の鉢に土を入れ、バランスよく花を植えていきますが、花の色や形によって微妙に雰囲気が変わるため、参加者はしばし、思案顔。杉本代表が「ポットから取り出した花は入れた土より上にして植えること」などと注意していました。また、底にはチュウリップの球根を埋め、正月の花が終わった後も楽しめるよう、工夫を凝らす指導をしていました。

作った寄せ植えはそれぞれ、持ち帰り、お正月の玄関などを彩りました。

お知らせ 参加者募集

★野菜づくり教室

3 月 1 日（金）午前 10 時から

飯南産業文化センター研修室

「春夏野菜の作り方について」

講師は JA みえなか飯南営農振興センター職員

定員は 15 人

受講希望者は柿野住民自治協議会事務局（090-5769-6948）まで



★健康ウォーキング

3月10日午前9時から

飯南産業文化センター前集合で、深野稲荷神社を往復
参加賞（ごみ袋、カップ麺）・飲み物などは各自ご持参ください。
参加希望者は柿野住民自治協議会事務局（090-5769-6948）まで



★歴史文化学習会

3月24日午前9時30分から

春谷寺（飯南町向粥見波留）の由緒、歴史を学び
エドヒカン桜観賞・飲み物などは各自ご持参ください。
定員は20人
参加希望者は柿野住民自治協議会事務局（090-5769-6948）まで



マックスバリュの大石店で

毎月11日のイオンデーに発行される黄色のレシートを柿野住民自治協議会BOXに投函を！



マックスバリュ大石店で、毎月11日のイオンデーに買物をする、「幸せの黄色いレシート」が発行されます。この黄色いレシートをその日、店内に置かれる各地区住民自治協議会の箱のうち、「柿野住民自治協議会」と書かれた箱に入れていただきますと、レシート総金額の1%が柿野住民自治協議会の事務用品代として助成支給されます。11日はマックスバリュ全店で黄色いレシートが発行され、助成支給の対象となりますので、皆様方のご協力をよろしく申し上げます。

編集後記

元旦に発生した能登半島地震はおとそ気分を吹き飛ばすものでした。お正月で帰省していた人たちも犠牲になりました。地震国の日本では時を選ばず、いつ大地震が襲ってくるかわからないことを改めて思い知らされました。静岡から宮崎沿岸の太平洋を震源とする南海トラフ巨大地震は今後30年の間に80%の確率で発生すると言われていています。能登半島地震でもわかったように、大混乱の中で、行政や消防に助けを求めても無理でなく、駆けつけて来てはくれません。私たちの住民自治協議会はスローガンに「安心安全のまちづくり」をうたっています。大災害のときこそ、自分たちの力で命を守る努力が必要です。行方不明者をいち早く把握して救助隊に知らせ、倒壊家屋から1分でも早く救出するための安全確認などの防災訓練を日頃からしっかりと行っておく必要があります。能登半島地震はそれを教えてくれたと思います（一）